

<p>理学・工学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 気象データの利活用手法の提案</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 気象学 ■ 気象観測 ■ 数値予報 ■ データ同化 	<p>気象衛星データの同化利用、地上、高層、衛星やレーダーによる気象観測データおよび気象モデルデータの解析を専門としてきた。天気予報や防災情報の精度向上、降水システム、気候変動の実態把握を目的とした研究を行っている。</p> <p>具体的には、衛星「ひまわり」データの数値天気予報への同化利用、顕著な大雨などの事例解析(二重偏波レーダーほか、様々な観測データの利用)、気象モデルと積雪モデルを組み合わせた降雪予測、衛星と地上カメラで推定した霧の特性、長期データセットを用いた降水の長期変動の解析など。</p> <p>気象データに関わる実務と研究の両方での経験をふまえ、今後は、課題解決に役立つデータの利活用手法について提案していきたい。例として次の2つを挙げる。</p> <p>[1] 地域防災等に関わる課題解決のための気象データ利活用 滋賀県付近や琵琶湖での顕著な気象の実態把握(気象モデルによる高解像度シミュレーションと観測データによる解析)。 温暖化に伴う地域気候の長期変動の実態把握と予測、適応策に関わること。</p> <p>[2] ビジネス課題に関わる気象データ利活用 気象データを用いた需要・供給量予測、工程管理、リスク回避、商品への付加価値などがビジネスの場で行われている。目的に合った気象データと分析手法の選択が特に重要と考える。</p>
	
<p>大塚 道子 Michiko Otsuka</p>	
<p>データサイエンス学部 准教授</p>	
<p>【プロフィール】 気象大学卒業後、気象庁で主に観測データ・統計データ処理、品質管理、データ提供等に関わる実務、技術開発を経て、気象研究所予報研究部(2012/4~2019/3)、気象大学校(2019/4~2024/3)で研究・教育に従事し、現職(2024/4~)。 首都大学東京大学院修士課程修了(2009)、東京都立大学大学院博士課程単位取得満期退学(2020)、博士(理学)。</p> <p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●所属学会 ・気象学会、「天気」編集委員 ・情報処理学会 ●出前講義 名大附属中・高 SSH 科学人材育成重点(高大接続)枠「とっきんとつきんへの道」2nd Stage (2024/5/25) ●委員 世界気象機関 測器観測法委員会 標準化に関する専門家チーム (2010/9~2014/4) <p>【主な論文】 M. Otsuka, H. Seko, M. Hayashi, and K. Koizumi, Data validation and mesoscale assimilation of Himawari-8 optimal cloud analysis products. <i>Journal of Atmospheric and Oceanic Technology</i>, 38, 223 – 242 (2021).</p>	<p>企業・自治体へのメッセージ</p> <p>地域課題における気象データの利活用で、地元の企業や自治体はじめ公共機関と連携していきたいです。</p>